

図 51 学歴をみると、若い世代ほど大卒が多い

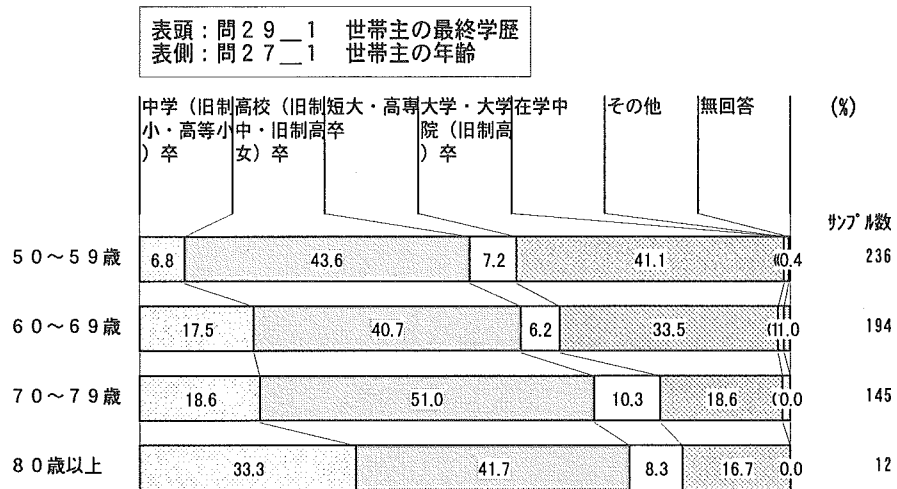


図 52 就労率は50代の世帯主で96%、60代で51.5%、70代で18.6%

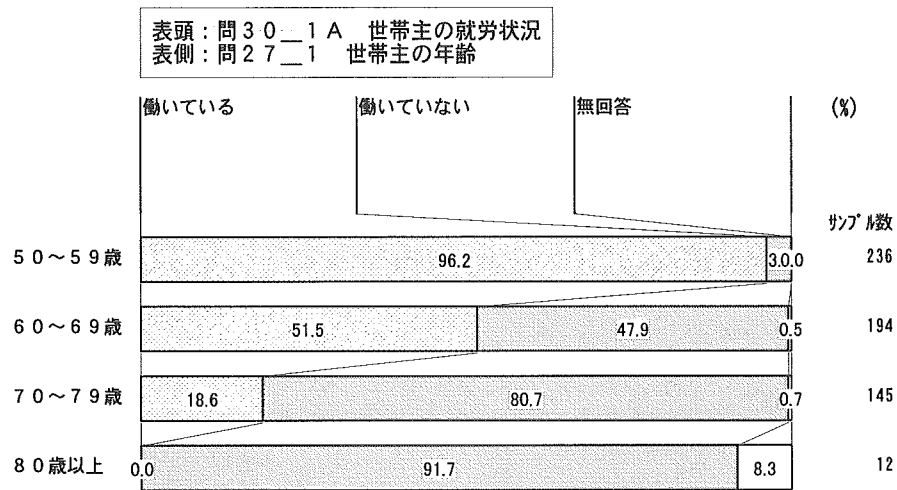


図 53 常勤正社員・職員は 50 代で 72%、60 代以上で 24%。年齢とともに非正規雇用や短時間勤務が増える

表頭：問 3 0 _ 1 B 世帯主の雇用形態 表側：問 2 7 _ 1 世帯主の年齢				(%)		
	常勤（正社員・正職員）	常勤（その他）	短時間勤務	無回答		
50～59歳	72.2		15.0	4.0	8.8	サンプル数 227
60～69歳	24.0	46.0	21.0		9.0	100
70～79歳	22.2	25.9	48.1		3.7	27

図 54 現在働いている回答者の希望退職年齢は、50 代の世帯主は平均 64.5 歳、60 代は 68.7 歳

表頭：問 3 1 付問 2 世帯主の就労希望年齢 表側：問 2 7 _ 1 世帯主の年齢							(%)	
	60歳以下	61～65歳	66～70歳	71～75歳	76～80歳	81歳以上	無回答	
50～59歳	27.4		39.3	10.5	4.1	0.5	16.9	サンプル数/平均 219 64.5
60～69歳	0.0	28.7		41.4	13.8	30.0	12.6	87 68.7
70～79歳	0.5	36.8		36.8		15.8	5.3	19 78.7

図 55 世帯主の子供の数（同居別居に関わらず）は、どの年代でも平均 2 人

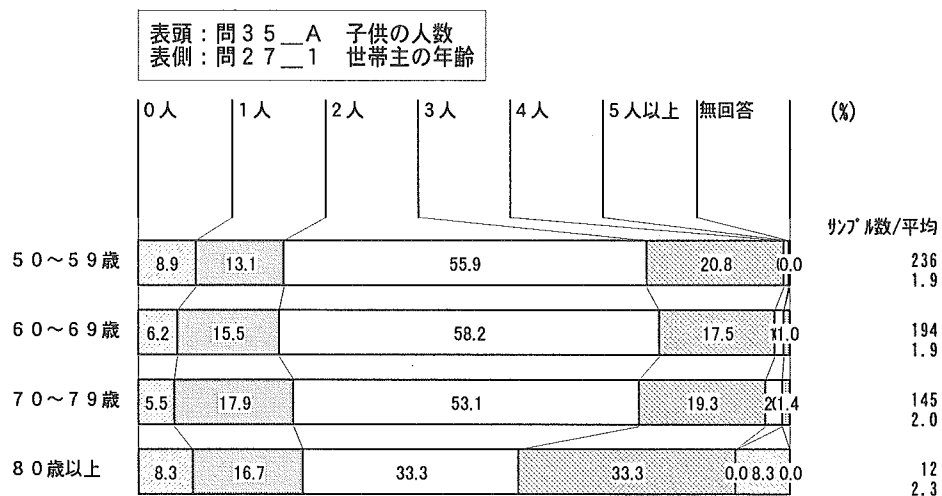


図 56 世帯人数は、世帯主が 50 代の場合に平均 3 人、60 代以上では平均 2 人

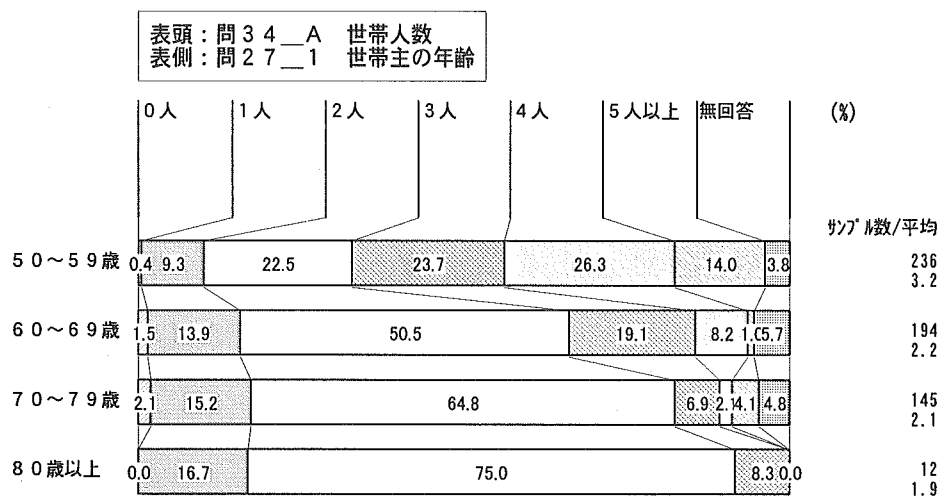


図 57 60代に比べ、50代は退職後の生活費を低めに見積もっている。

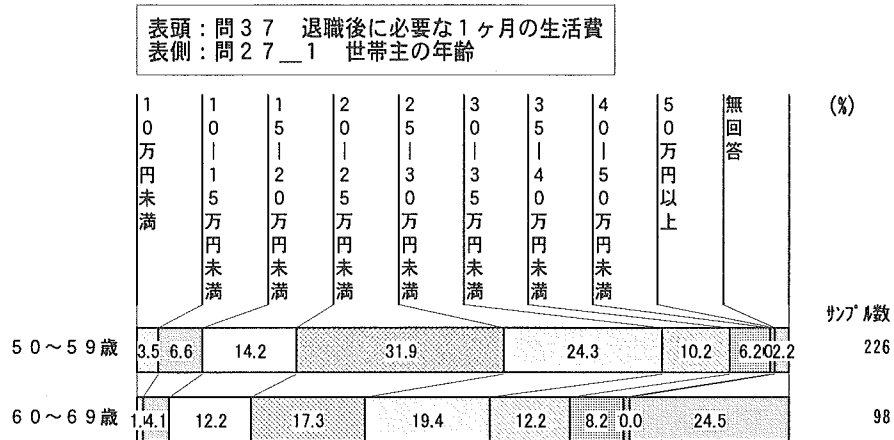
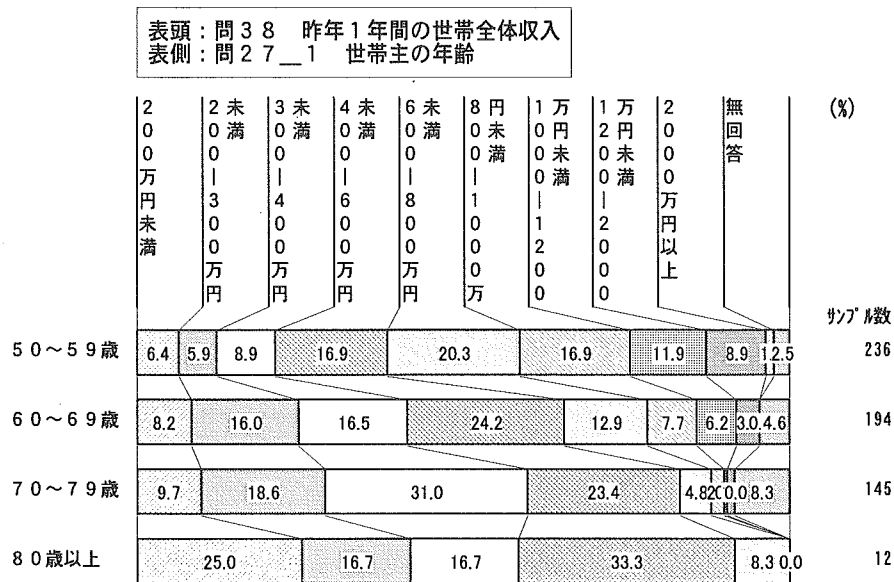


図 58 世帯収入は年齢とともに減少。50代では600から800万円の所得階級が最も多い。60代では400から600万円、70代では300から400万円が最も多い。





(ここからはすべての方に伺います。)

問3 世帯主の方および配偶者の方の「①保険料を納付していた期間」と「②免除されていた期間」、そして「③第3号被保険者(厚生・共済年金加入の世帯主の被扶養者)である期間」をお答えください。それぞれ、通算の年数をご記入ください。

	①納付期間	②免除期間	③第3号被保険者の期間
世帯主の方 →	年      ヶ月	年      ヶ月	年      ヶ月
配偶者の方 →	年      ヶ月	年      ヶ月	年      ヶ月

問4 公的年金以外に、世帯主の方が加入している、あるいは加入していた年金は、次のうちどれですか。  
(○はあてはまるものすべて)

1 企業年金	4 個人型確定拠出年金(国民年金基金連合会)
2 民間個人年金	5 公的年金以外加入していない
3 国民年金基金(国民年金に上乗せするため任意で個人が加入)	

問5 世帯主の方は、現行の年金制度が以下のような役割をそれぞれどの程度果たしていると思いますか。

最も当てはまるところに○をお付けください。

直感や印象で答えてくださって構いません。

(それぞれ○は1つ)

	全く 果たして いない	⇔	どちらとも いえない	⇔	よく 果たして いる				
勤労世代がその時代の老齢世代を支える	1	…	2	…	3	…	4	…	5
老人をその家族だけでなく、社会全体で支えていく	1	…	2	…	3	…	4	…	5
戦争など不幸な出来事に見舞われた世代への補償	1	…	2	…	3	…	4	…	5
想定を超えて長生きした場合に対する備え	1	…	2	…	3	…	4	…	5
個人の代わりに国が行う貯蓄積み立て(国が国民に提供している貯蓄代行サービス)	1	…	2	…	3	…	4	…	5
将来の予期せぬ経済変動への対応(インフレなどによる個人資産の目減りへの備え)	1	…	2	…	3	…	4	…	5
民間会社と異なり、破綻することのない国が制度運営をすることの安心感	1	…	2	…	3	…	4	…	5
老後の一定以上の生活水準を国が保障する	1	…	2	…	3	…	4	…	5

問6 世帯主の方は、公的年金制度が以下のような役割を果たすべきだとお考えですか。

最も当てはまるところに○をお付けください。

(それぞれ○は1つ)

	果たす 必要は 全くない	⇔	どちらとも いえない	⇔	ぜひ 果たす べき				
勤労世代がその時代の老齢世代を支える	1	…	2	…	3	…	4	…	5
老人をその家族だけでなく、社会全体で支えていく	1	…	2	…	3	…	4	…	5
戦争など不幸な出来事に見舞われた世代への補償	1	…	2	…	3	…	4	…	5
想定を超えて長生きした場合に対する備え	1	…	2	…	3	…	4	…	5
個人の代わりに国が行う貯蓄積み立て(国が国民に提供している貯蓄代行サービス)	1	…	2	…	3	…	4	…	5
将来の予期せぬ経済変動への対応(インフレなどによる個人資産の目減りへの備え)	1	…	2	…	3	…	4	…	5
民間会社と異なり、破綻することのない国が制度運営をすることの安心感をもたらす	1	…	2	…	3	…	4	…	5
老後の一定以上の生活水準を国が保障する	1	…	2	…	3	…	4	…	5

問7 世帯主の方が生涯の間に納める公的年金の保険料総額のどのくらいが、世帯主の年金として給付されると思いますか。ただし、厚生年金と共済年金の保険料額については、労使双方が納付している合計の金額として考えてください。(厚生年金と共済年金の保険料は労働者と雇い主の折半となっています。つまり、世帯主が源泉徴収されている保険料の2倍の金額が世帯主分の保険料として支払われています)。配偶者が専業主婦(第3号)の場合には配偶者が受け取る基礎年金の分も合計してお考えください。共働きや単身、また今独身の方は、ご自分が受け取る給付のみをお考えください。(〇は1つ)

1 0～2割未満	3 4～6割未満	5 8～10割未満	7 1.5～2倍未満	9 3～4倍未満
2 2～4割未満	4 6～8割未満	6 1～1.5倍未満	8 2～3倍未満	10 4倍以上

問8 (現在、年金保険料を払っている世帯主の方に伺います。年金受給者の方はこの問を飛ばして問9からお答えください。)

仮に公的年金の保険料納付額を自分で自由に決められるとするなら、現在の年金保険料と比べてどの程度の割合を納付し続けますか。ただし、年金保険料の納付額に応じ、自らの年金受給額は同じ割合で増減するものとします。以下の中から、世帯主の方にとって最も望ましいもの一つを選んでください。納付額を変更する場合は、どの程度変更するかを選んでください。

(〇は1つ)

1 現状どおりの保険料を納付し続ける
2 現状より保険料の納付額を減らす
3 保険料を一切支払わない
4 現状より多く保険料を納付する

付問1 何割減らしますか。(〇は1つ)

1 0～2割未満	4 6～8割未満
2 2～4割未満	5 8～10割未満
3 4～6割未満	

付問2 どのくらい増やしますか。(〇は1つ)

1 1～1.5倍未満	4 3～4倍未満
2 1.5～2倍未満	5 4倍以上
3 2～3倍未満	

問9 (すべての方に伺います。)

現在の公的年金制度の下で、勤労世代が納付している年金保険料のうちどのくらいが、現在の老齢世代に支給されている年金給付にあてられていると世帯主の方は思われますか。(〇は1つ)

1 現在、老齢世代に支給されている年金に、全額が使われている
2 将来の公的年金の原資として、全額が積み立てられている。
3 大部分は将来の公的年金の原資として積み立てられているが、一部は現在の老齢世代に支給される年金にまわっている
4 一部は将来の公的年金の原資として積み立てられているが、大部分は現在の老齢世代に支給される年金にまわっている
5 その他
6 わからない

付問 (問9で、「3」あるいは「4」を選択された方に伺います。)

現在勤労世代が納付している保険料の何割が、将来の年金のために積み立てられていると思われませんか。(〇は1つ)

1 0～1割未満	3 2～3割未満	5 4～5割未満	7 6～7割未満	9 8～9割未満
2 1～2割未満	4 3～4割未満	6 5～6割未満	8 7～8割未満	10 9～10割

- 世帯主の方が厚生年金・共済年金の保険料を現在払っている場合 →次の文章(問10)へ
- 世帯主の方が厚生年金・共済年金の「受給者」である場合 →問11へ
- 上記以外の場合 →問12へ

まず、以下の文章をお読みください。

今年65歳で厚生年金を受け取る方の年金受給額は、夫が40年間サラリーマン、妻が40年間専業主婦の場合で、平均月**23.3万円**(夫婦合計)となっています。しかしながら、厚生労働省の予測によれば、将来の年金受給者の年金額はだんだんと引き下げられ、**2025年**に65歳となって年金を受け取る方(現在45歳の方)の場合には、平均月**19.0万円**(夫婦合計)まで下げられ、それ以降の世代も平均月**19.0万円が維持される**とされています。ちなみに、独身者の場合の受給額の予想は下表の通りです。しかしながら、これはあくまで厚生労働省の予想であり、高齢者の寿命や労働者数、日本の経済成長率、金利などが厚生労働省の想定よりも悪化した場合には、将来受け取る年金額はこれよりも**少なくなる可能性**があります。また逆に状態が好転した場合は受け取る年金額が**多くなる可能性**もあります。

世帯の種類	2004年に 65歳の方の年金月額	2025年以降に 65歳となる方の年金月額
夫が40年働き、妻が40年間専業主婦	23.3万円(妻の分を合計)	19.0万円(妻の分を合計)
男性が独身で40年間働いた場合	16.7万円	13.7万円
女性が独身で40年間働いた場合	12.9万円	10.5万円

注)この金額は将来の物価上昇や賃金上昇率をないものとして算出しています。

問10 世帯主の方が、年金を受給し始めるときに、月額で受け取る年金額はどのくらいになると予想していますか。一番ありそうと思われる金額をご記入ください。ただし、配偶者が専業主婦(第3号)の場合には配偶者が受け取る基礎年金の分も合計して記入してください。共働きや単身の場合には本人の分のみをお答えください。また今独身の方は、本人の分のみご記入ください(以下同じ)。

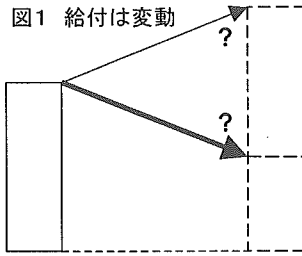
月額   万円

付問1 世帯主の方は、自分が受け取る公的年金の月額は、最低でどのくらいになりうと思いますか。「この金額以下にはならないだろう」と感じられるぎりぎりの最低金額をご記入ください。また、最高ではどのくらいになりうと思いますか。「この金額以上にはならないだろう」と感じられるぎりぎりの最高金額をご記入ください。

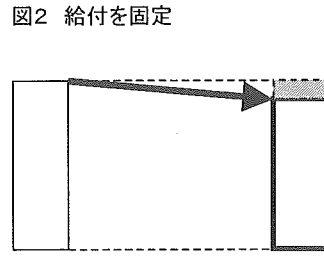
最低で   万円      最高で   万円

付問2 問10の「一番ありそうと思われる金額」についてさらにお尋ねします。このありそうな金額は、将来もっと下がるか、上がるかわからない不確実な状況にあります。そこで、次のような想定をします。政府が、現在の不確実な年金(次ページ図1)の代わりに、若干の給付額の割引を行って、将来にわたって一定の年金給付額が確実にもらえるような仕組みを作るとします(次ページ図2)。





一番ありそうだと  
思われる金額      実際の年金支給額



一番ありそうだと  
思われる金額      実際の年金支給額

その場合、世帯主の方は問 10 の「一番ありそうと思われる金額」から最大何パーセントくらい割り引かれても、図 2 の仕組みの方が図 1 の仕組みよりも望ましいと思いますか。図 2 の斜線部分の比率をご記入ください。また、年金を固定させる必要が無い場合には 0 と記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 %

(現在、公的年金を受給している、あるいは年金保険料を払っている世帯主の方に伺います。)

問 11 現在、老齢基礎年金(国民年金や厚生・共済年金の定額部分)の受給開始年齢は原則 65 歳ですが、本人が希望をすれば 60-70 歳の間のいつからでも受け取ることができます。ただし、64 歳以前に受け取る場合には、「繰り上げ支給」として、65 歳から受け取る場合の金額よりも毎月受け取る金額が減額されます(生涯にわたって減額されます)。逆に、66 歳以降に受給開始時期を遅らせた場合には、「繰り下げ支給」として金額が増額されます(表参照)。

表 65 歳からの繰り上げ支給、または繰り下げ支給による年金額の変化

開始年齢	60 歳	61 歳	62 歳	63 歳	64 歳	65 歳	66 歳	67 歳	68 歳	69 歳	70 歳
年金額	70%	76%	82%	88%	96%	100%	108%	117%	125%	134%	142%

注)65 歳に受給を開始した場合の年金額を 100%とした、各開始年齢での年金額の大きさを示す。昭和 16 年以降に生まれた場合。

世帯主の方は、将来この繰り上げ支給や繰り下げ支給を使いますか、あるいは既に使いましたか。将来使う場合は、受給を開始する予定の年齢を、また既に受給している場合には、受給を開始した年齢をご記入ください。まったく想像もできない場合には、「3」に○をお付けください。(○は 1 つ)

1 使う(あるいは使った)	→[ _____ 歳で受給開始]
2 使わない(65 歳で受給開始)	
3 まったく想像もできない	

付問 仮にいま、繰り上げ支給、繰り下げ支給の開始割合が次のように変わったとします。

表 65 歳からの繰り上げ支給、または繰り下げ支給による年金額の変化

開始年齢	60 歳	61 歳	62 歳	63 歳	64 歳	65 歳	66 歳	67 歳	68 歳	69 歳	70 歳
年金額	40%	52%	64%	76%	88%	100%	117%	134%	150%	167%	184%

注)65 歳に受給を開始した場合の年金額を 100%とした、各開始年齢での年金額の大きさを示す。

この場合、世帯主の方は、この繰り上げ支給や繰り下げ支給を使いますか。使う場合は、受給を開始する予定の年齢をご記入ください。既に受給を開始している方は、受給を開始した時点で仮に上のような状況であったならば、開始したであろう年齢をご記入ください。(○は 1 つ)

1 使う	→[ _____ 歳で受給開始]
2 使わない(65 歳で受給開始)	
3 まったく想像もできない	

(ここからはすべての方に伺います。)

問 12 仮に、政策により、ある世代の公的年金給付総額を上げて、その分だけ別の世代の給付総額を下げる事が可能だとします。世帯主の方は、どの世代の給付総額を上げて、どの世代の給付総額を下げる政策を望みますか。次の表の 8 つの世代それぞれについて、給付総額を「上げる」「変えない」「下げる」の三つの中から○を1つ付けてください。ただし、ある世代の給付総額を上げる場合は、別の世代の給付総額は下げなくてはいけません。

(それぞれ○は1つ)	給付総額を上げる	⇔	給付総額を変えない	⇔	給付総額を下げる
	いま 20 歳未満の世代	1	…	2	…
いま 20 代の世代	1	…	2	…	3
いま 30 代の世代	1	…	2	…	3
いま 40 代の世代	1	…	2	…	3
いま 50 代の世代	1	…	2	…	3
いま 60 代の世代	1	…	2	…	3
いま 70 代の世代	1	…	2	…	3
いま 80 歳以上の世代	1	…	2	…	3

問 13 昨年に行われた年金制度改革によって、年金保険料は今後毎年少しずつ上がり、2017 年以降は固定されることになりました。

この決定が将来変更されるかどうかについて、世帯主の方の予想を伺います。世帯主の方は、「今後再び年金改革が行われて、保険料は 2017 年以降も引き上げが続くようになる」という可能性はあると思われますか、ないと思われますか。間違いなくそのような改革があると思うならば 100%、絶対にそのような改革はないと思うならば 0%として、○を付けてください。(○は1つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 14 老齢基礎年金(国民年金や厚生・共済年金の定額部分)は、現在 65 歳から支給されています。この政策が将来変更されるかどうかについて、世帯主の方の予想を伺います。世帯主の方は、「今後 10 年以内に再び年金改革が行われて、老齢基礎年金の支給開始年齢が 65 歳から 70 歳へ徐々に引き上げられることが決まる」という可能性はあると思われますか、ないと思われますか。前問同様、確実にあるならば 100%、絶対にないと思うならば 0%として、○を付けてください。(○は1つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 15 世帯主の方は、今から 30 年後に(2035 年時点で)公的年金制度が存在している可能性は、どのくらいあると思いますか。確実に存続していると思う場合は 100%、五分五分ならば 50%、確実になくなっていると思うならば 0%として、○を付けてください。(○は1つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 16 公的年金に関する以下の用語のうち、世帯主の方がだいたいの意味を知っているものはどれですか。  
(○はあてはまるものすべて)

1 第3号被保険者	5 国庫負担	9 年金の最低受給資格期間
2 確定拠出年金	6 マクロ経済スライド	10 積み立て方式
3 賦課方式	7 所得代替率	
4 物価スライド	8 スウェーデン方式	

問 17 世帯主の方は、ご自分の寿命は何歳くらいだと思いますか。(2004年の厚生労働省の調査発表によると、日本人の平均寿命は男性が78歳くらい、女性が85歳くらいです。)  
(○は1つ)

1 60歳未満	4 70～74歳	7 85～89歳	10 100～109歳
2 60～64歳	5 75～79歳	8 90～94歳	11 110～119歳
3 65～69歳	6 80～84歳	9 95～99歳	12 120歳以上

問 18～問 22 は、時間やリスクに対する世帯主の方の感じ方を伺うための質問です。  
各問にお答えください。

問 18 仮に、1年後に1万円もらうのと、1年と1週間後に1万2千円もらうのとで、好きな方を選ぶとすれば、世帯主の方はどちらをとりますか。  
(○は1つ)

1 1年後の1万円	2 1年と1週間後の1万2千円
-----------	-----------------

付問 では、2日後に1万円もらうのと、9日後に1万2千円もらうのでは、世帯主の方はどちらをとりますか。  
(○は1つ)

1 2日後の1万円	2 9日後の1万2千円
-----------	-------------

問 19 1年後に10万円もらうのと、1年と1週間後に10万2千円もらうのでは、世帯主の方はどちらをとりますか。  
(○は1つ)

1 1年後の10万円	2 1年と1週間後の10万2千円
------------	------------------

付問 では、2日後に10万円もらうのと、9日後に10万2千円もらうのでは、世帯主の方はどちらをとりますか。  
(○は1つ)

1 2日後の10万円	2 9日後の10万2千円
------------	--------------

問 20 世帯主の方は、中学生の時、夏休みに出された宿題をいつごろやるが多かったですか。  
(○は1つ)

1 夏休みの初めにまとめてやった	4 後半にかけてやった
2 前半にかけてやった	5 夏休みの終わりにまとめてやった
3 毎日ほぼ均等にやった	

問 21 仮に、五分五分の確率で当たりか外れになる宝くじがあるとお考えください。当たった場合には 2,000 円もらえますが、外れた場合には何ももらえません。いま、世帯主の方はこの宝くじを無料で手に入れたとします。もしも、「その宝くじを 200 円で売ってほしい」という人が現れたら、世帯主の方は売りますか。世帯主の方の考えに近いほうに○を付けてください。(○は 1 つ)

1 売る	2 売らない
------	--------

-----▶ 付問2へ

付問1 (問 21 で「1 売る」とお答えになった方に伺います。)

では、この宝くじの値段が 200 円からいくらまで安くなったら、売るのをやめますか。「この値段より下がったら売るのをやめる」というぎりぎりの額をご記入ください。

			円
--	--	--	---

付問2 (問 21 で「2 売らない」とお答えになった方に伺います。)

では、この宝くじの値段が 200 円からいくらまで高くなったら、売る気になりますか。「せめてこのくらいの値段になったら、売ってもよい」というぎりぎりの額をご記入ください。

				円
--	--	--	--	---

問 22 世帯主の方は普段出かける時に、天気予報の降水確率が何%の時に傘をもっていきますか。常に傘を携帯している方は、0%として、○を付けてください。(○は 1 つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 23 世帯主の方の、現在の健康状態はいかがですか。(○は 1 つ)

1 よい	2 まあよい	3 ふつう	4 あまりよくない	5 よくない
------	--------	-------	-----------	--------

問 24 世帯主の方は、病気のために、1年に平均して何回医者にかかりますか。回数をお答えください。

1年間に平均して

--	--	--

回

問 25 将来、ある程度重い病気にかかる可能性について伺います。今後 10 年間で、世帯主の方が 3 日間以上入院するような病気にかかる可能性は、どのくらいあると予想されますか。10 年以内に確実にそのような病気にかかると思うならば 100%、絶対にそのような病気にはかからないと思うならば 0%に○を付けてください。(○は 1 つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 26 将来、介護が必要となる可能性について伺います。世帯主の方は、自分が 75 歳になったとき、要介護状態となっている可能性はどのくらいあると思われますか。75 歳の時点で確実に要介護状態になっていると思うならば 100%、絶対に要介護状態ではないと思うならば 0%として、○を付けてください。ただし、既に 75 歳の方で、現在要介護状態でない方は、10 年後に要介護状態になっている可能性をお答えください。(○は 1 つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

問 27 世帯主と配偶者の年齢をご記入ください。

[世帯主]	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳	[配偶者]	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳
-------	----------------------	----------------------	----------------------	---	-------	----------------------	----------------------	----------------------	---

問 28 世帯主と配偶者の性別をお答えください。(それぞれ○は1つ)

[世帯主]	1 男性	2 女性	[配偶者]	1 男性	2 女性
-------	------	------	-------	------	------

問 29 世帯主の方と配偶者の方の最終学歴は次のどれに当たりますか。(それぞれ○は1つ)

[世帯主]	[配偶者]
1 中学(旧制小・高等小)卒	1 中学(旧制小・高等小)卒
2 高校(旧制中・旧制高女)卒	2 高校(旧制中・旧制高女)卒
3 短大・高専卒	3 短大・高専卒
4 大学・大学院(旧制高)卒	4 大学・大学院(旧制高)卒
5 在学中	5 在学中
6 その他	6 その他

問 30 世帯主と配偶者は働いておられますか。また、働いておられる場合は、雇用形態をお答えください。

(それぞれ○は1つ)

[世帯主]→	1 働いている→ [ 1 常勤(正社員・正職員) 2 常勤(その他) 3 短時間勤務 ] 2 働いていない
[配偶者]→	1 働いている→ [ 1 常勤(正社員・正職員) 2 常勤(その他) 3 短時間勤務 ] 2 働いていない

問 31 世帯主と配偶者のご職業をお答えください。

(それぞれ○は1つ)

[世帯主]→	1 民間企業	3 その他団体	5 個人経営・自営業	7 無職・退職
	2 官公庁	4 農林漁業	6 その他	
[配偶者]→	1 民間企業	3 その他団体	5 個人経営・自営業	7 無職・退職
	2 官公庁	4 農林漁業	6 その他	

付問1 (問 31 で「2 官公庁」と「7 無職・退職」以外に○をつけた方に伺います。)

お勤め先の企業規模はどれくらいでしょうか。

(それぞれ○は1つ)

[世帯主]→	1 1~4人	2 5~29人	3 30~499人	4 500~999人	5 1000人以上
[配偶者]→	1 1~4人	2 5~29人	3 30~499人	4 500~999人	5 1000人以上

付問2 (現在働いておられる世帯主の方(問 31 で「6 その他」「7 無職・退職」以外に○をつけた方)に伺います。) 世帯主の方は、およそ何歳まで働き続ける予定ですか。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳まで
----------------------	----------------------	-----

付問3 (問 31 で「7 無職・退職」に○をつけた世帯主の方に伺います。)

以前は働いていましたか。また何歳まで働いていましたか。

(○は1つ)

1 以前は働いていた	→ [ <input type="text"/> 歳まで ]	2 これまで働いていたことはない
------------	--------------------------------	------------------

問 32 (現在お勤めになっている世帯主の方に伺います。)

今後 5 年間以内に、倒産や解雇、雇い止めのために現在の職を失う可能性はどのくらいあると思われますか。今後 5 年の間に今の職を失うときが来ると思うならば 100%、5 年以内に今の職を失うことはありえないと思うならば 0%として、○を付けてください。(○は 1 つ)

1 0～9%	3 20～29%	5 40～49%	7 60～69%	9 80～89%
2 10～19%	4 30～39%	6 50～59%	8 70～79%	10 90～100%

(ここからはすべての方に伺います。)

問 33 世帯主の方の住居は、次のどれにあたりますか。(○は 1 つ)

1 一戸建ての持家(ローン完済)
2 一戸建ての持家(ローン未済)
3 集合住宅[マンション・アパート]の持家(ローン完済)
4 集合住宅[マンション・アパート]の持家(ローン未済)
5 集合住宅の借家
6 その他(具体的に )

問 34 現在の世帯人数(世帯主の方と同居して、生計を一つにしておられる方の人数)と、そのうちで被扶養者(扶養家族)の方の人数をお答えください。

[世帯人数]→   人

[被扶養者の人数]→   人

問 35 世帯主の方にはお子さんはいらっしゃいますか。生計をともにしている／していないに関わらず、また、同居・別居に関係なくご記入ください。(なお、お子さんがいらっしゃらない場合は、0 と記入してください。)また、その中で世帯主の方が扶養しているお子さんは何人でしょうか。

[世帯主のお子さんの人数]→   人

[そのうち世帯主が扶養するお子さんの人数]→   人

付問 (問 35 で[世帯主のお子さんの人数]に 0 と記入された方に伺います。)

今後お子さんをもつ予定はありますか。ある場合には予定人数をご記入ください。(○は 1 つ)

1 ない	2 ある →[ <input type="text"/> 人 ]
------	----------------------------------

問 36 あなたの世帯の 1 ヶ月の生活費はどのくらいですか。ただし生活費には次のものを含みます。

食費、住居費(家賃、光熱・水道費を含み、土地・住宅購入費や住宅改修費を除く)、被服費、耐久消費財購入費、交通・通信費、保険・医療費、教育費、教養娯楽・交際費。(○は 1 つ)

1 10 万円未満	4 30～40 万円未満	7 60～70 万円未満
2 10～20 万円未満	5 40～50 万円未満	8 80～90 万円未満
3 20～30 万円未満	6 50～60 万円未満	9 90 万円以上

問 37 (まだ退職されていない世帯主の方に伺います。)

退職後の生活費として、あなたの世帯全体では、1ヶ月にどのくらいの金額が必要になるとお考えですか。生活費の定義は問 36 と同じです。(○は1つ)

1 10万円未満	4 20～25万円未満	7 35～40万円未満
2 10～15万円未満	5 25～30万円未満	8 40～50万円未満
3 15～20万円未満	6 30～35万円未満	9 50万円以上

(ここからはすべての方に伺います。)

問 38 恐縮ですが、あなたの世帯全体の昨年1年間の収入(生計を一つにしている全員の給与・事業収入、金利収入、年金、仕送りなどの合計)をお答えください。(○は1つ)

1 200万円未満	4 400～600万円未満	7 1000～1200万円未満
2 200～300万円未満	5 600～800万円未満	8 1200～2000万円未満
3 300～400万円未満	6 800～1000万円未満	9 2000万円以上

付問 昨年1年間の世帯主個人の収入をお答えください。(○は1つ)

1 200万円未満	4 400～600万円未満	7 1000～1200万円未満
2 200～300万円未満	5 600～800万円未満	8 1200～2000万円未満
3 300～400万円未満	6 800～1000万円未満	9 2000万円以上

問 39 恐縮ですが、あなたの世帯の金融資産の合計額を伺います。銀行の預貯金、郵便貯金、生命保険・損害保険の保険料払い込み総額、株式・株式投信、投資信託、債券、財形貯蓄・社内預金などをすべて合計すると、金融資産はおよそいくらお持ちですか。(○は1つ)

1 300万円未満	4 1200～2000万円未満	7 5000～1億円未満
2 300～800万円未満	5 2000～3000万円未満	8 1億～1億5000万円未満
3 800～1200万円未満	6 3000～5000万円未満	9 1億5000万円以上

付問 世帯の金融資産の内訳についてうかがいます。以下の金融資産について、それぞれが世帯の金融資産の全体に占めるおよその割合をお答えください。所有していない種類については0割とご記入ください。また、すべての種類の回答を合計すると10割になるよう、ご注意ください。

銀行預貯金+郵便貯金			割
株式および株式投信の時価総額			割
債券(国債、金融債、ワイド、社債)の時価総額			割
生命保険の保険料払い込み総額			割
その他			割
合 計	1	0	割

問 40 あなたの世帯全体の実物資産(土地・建物・地金・宝飾品・ゴルフ会員権・絵画など、ただし金融資産は含まない)は現在の評価額でおよそいくらくらいですか。(○は1つ)

1 300万円未満	4 1200～2000万円未満	7 5000～1億円未満
2 300～800万円未満	5 2000～3000万円未満	8 1億～1億5000万円未満
3 800～1200万円未満	6 3000～5000万円未満	9 1億5000万円以上